



左幅 (緋桃に白椿図)



右幅 (紅白桃に竹図)



中幅 (西王母)

この二幅は、中幅に中国古代の神仙・西王母をおき、その左右に配置される。西王母の伝説は様々に展開して、文学や美術に影響を与え、わが国でも古くより画題として採り入れられている。長寿を願う漢の武帝に、西王母が三千年に一度花が咲き、実がなる桃を与えたという伝説に基づき、西王母と桃花の取り合わせはほぼ定まっている。本作品もその故事に則り、左右に桃花を描いた図を配置する。右幅には通常の紅白桃図であるが、左幅には河畔に咲く緋色の桃花と白椿を描く。この左幅の濃い紫の強いピンク系の色の染料を用いているかと思われる色や椿の描写には、南蘋派の影響も看取され、時代の反映が窺える。狩野派も時代の流れの中で、それぞれの画師が描写に工夫を試みているのである。

狩野高信(一七四〇～一七九四)は、狩野宗家である中橋狩野家の第十二代目で、山水花鳥画をよくしたといわれる。本作品は、しっかりした筆致と美しい色彩にその技量の程を窺うことができる。

絹本着色 江戸時代(十八世紀)
本紙各一・二・〇×四五・二

11 紅白桃・緋桃図
狩野高信 二幅(三幅対のうち)

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections